

# 分析結果報告書〔13〕 1/2

## 3. 2 模擬大気試料 (PM2.5 の模擬分解液) (亜鉛 (Zn))

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得 (複数回答可)	1. ISO 9001~9003    2. ISO/IEC 17025(ガイド25)    3. MLAP 4. (上記1~3を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者 氏名	
経験年数 (年)	(       ) 年
実績 (年間の分析試料数)	(       )
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり        2. なし

### <分析担当者の経験等>

分析の経験 (PM2.5 抽出液)	1. あり    2. なし
分析の経験 (環境水・地下水・排水)	1. あり    2. なし
分析の経験 (土壌)	1. あり    2. なし

### <分析結果>

1回目 (ng/mL) 注1~3)	(       ) ng/mL
2回目 (ng/mL) 注1~3)	(       ) ng/mL
3回目 (ng/mL) 注1~3)	(       ) ng/mL
4回目 (ng/mL) 注1~3)	(       ) ng/mL
5回目 (ng/mL) 注1~3)	(       ) ng/mL
Z-スコアの報告書資料編への記載 注4)	1. 希望する        2. 希望しない

注1) 本調査においては、下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。

注2) 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字3桁で報告値を記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、ND と記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧()をつけ JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字1桁で記入する。

注4) 分析結果を報告した機関が20に満たない際は、Z-スコアの報告書資料編への記載を行わない場合がある。

### <分析方法等>

試料受取日 注)	(       )
分析開始日 注)	(       )
分析終了日 注)	(       )
分析方法	1. ICP質量分析法    2. その他 (       )
使用した水	1. 蒸留水    2. イオン交換水    3. 超純水    4. その他 (       )

注) 半角で記入する 例: 2020/7/28

### <ICP 質量分析法-1>

ろ過等の操作	1. ろ過    2. 遠心分離    3. その他 (       )    4. 行わない
試料希釈率 注)	(       )
ICP 質量分析装置 メーカー	(       )
使用年数 (年)	(       ) 年
質量分析計	1. 四重極    2. 二重収束    3. その他 (       )
スペクトル干渉の低減または補正 コリジョン・リアクションセル	1. 行う    2. 行わない
1. 行う場合 使用ガス	1. ヘリウム    2. 水素    3. その他 (       )
1. 行う場合 使用ガス流量 (mL/分)	(       ) mL/分
補正式による補正	1. 行う    2. 行わない
その他	1. 行う (       )    2. 行わない
超音波ネブライザーの使用	1. 行う    2. 行わない
スプレーチャンバーの材質	1. ガラス製    2. 石英製    3. 樹脂製 4. その他 (       )
装置のメモリー(バックグラウンド)低減対策	1. 行う    2. 行わない
装置メモリー低減方法	1. 酸による洗浄    2. その他 (       )
使用する洗浄液の種類	(       )

注) 例: 試料を20倍に希釈した場合は20と記入する。希釈しない場合は1と記入する。

# 分析結果報告書〔13〕 2/2

## <ICP 質量分析法-2>

セリウムまたはバリウムによる酸化物イオン生成比 (%)	( ) %
酸化物イオン生成比の確認に用いたイオン	1. セリウム 2. バリウム
内標準の添加方法	1. オンラインで添加 2. 試験液に事前に添加
オートサンプラの使用における洗浄液の交換頻度 注)	1. 測定ごと 2. その他 ( )
ポンプチューブの交換頻度 注)	1. 測定ごと 2. その他 ( )
積分時間 (質量数毎) (秒)	( ) 秒
質量数	( )

注) 測定ごと以外の場合は、具体的な頻度を記入する。例：1 週間毎

## <標準物質>

標準原液	
調製方法	1. 自社調製 2. 市販品を購入
メーカー名	( )
純度・規格 注1)	( )
濃度 (mg/L)	( ) mg/L
調製・購入からの経過月 (月)	( ) 月
検量線標準液調製からの経過日(日)注2)	( ) 日

注1) 分かる範囲で記入する。

注2) 標準原液をそのまま使用した場合も選択する。用時調製の場合は0を記入する。

## <検量線の作成等>

定量方法	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法
検量線の点数	( )
検量線の作成範囲 (ng/mL)	最小 ( ) ~ 最大 ( ) (ng/mL)
内標準の種類	( )
内標準質量数	( )
試料の指示値 (対象物質) (平均)	( )
試料の指示値 (内標準物質) (平均)	( )
空試験の指示値 (平均)	( )
検量線最高濃度指示値 (平均)	( )
装置検出下限値 (IDL) 注1) (ng/mL)	( ) ng/mL
IDLの算出方法 注2)	1. 大気中微小粒子状物質 (PM2.5) 成分測定マニュアルの無機元素測定法に記載されている方法 2. JIS K 0102 52.5 に記載されている数値を引用 3. JIS K 0133 (高周波プラズマ質量分析通則) 附属書 A に記載されている方法 4. 3σ 法で計算 5. その他 ( )
分析法検出下限値 (MDL) 注1) (ng/mL)	( ) ng/mL
MDLの算出方法 注2)	1. 大気中微小粒子状物質 (PM2.5) 成分測定マニュアルの無機元素測定法に記載されている方法 2. JIS K 0102 52.5 に記載されている数値を引用 3. JIS K 0133 附属書 A に記載されている方法 4. 3σ 法で計算 5. その他 ( )

注1) 試料中の濃度を示す。

注2) ここで σ とは特定濃度を繰り返し測定した際の標準偏差をさす。

## <試料の保存状況>

保存方法	1. 冷暗所保存 2. 保存しない (直ちに分析) 3. その他 ( )
保存時間 (時間) 注)	( ) 時間
保存温度 (°C)	約 ( ) °C

注) 時間単位で整数を記入する (例えば、60 分では1 時間とする)。

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
計算式	